長泉麗峰山の会・山行報告書	文・写真　後藤
山行番.	NO.2104
日　時	2025 年 12 月 29 日（月）晴・上部強風
山　域	北八ッ・西天狗岳（2646m）西尾根
コース	唐沢鉱泉 6:30-第一展望台 8;29-西天狗岳 10:00～30-唐沢鉱泉 13:07-長泉 17:30
標高差	唐沢鉱泉約 1865m～西天狗岳 2646m＝約 781m＋30m
難易度	非常に困難　困難　**やや困難**　レ普通　やや易しい　易しい
外人さんも多い、賑わいの雪山だった	
参加者	後藤、村山俊一（静岡安倍っ子山の会）＝2 名

同行者が見つかる

年末の山は何処か予定したが、なかなか相方が見つからなかった。最近、加齢と共にペースが上がらず、なかなか若い方と行き難い状況。ユックリなら上れるが、速く歩けない。若い女子にも抜かれるから情けない。

県連のネットワークで参加者を募ったが誰も居なかった。結局、単独で敢行と思った矢先の 27 日、静岡安倍っ子山の会の M 氏から参加申し込みがあった。雪山単独は、避けたかったので同行は有難かった。

南諏訪から、左が天狗岳

小松山荘

懐かしい「小松山荘」

M 氏とは、29 日現地合流なので、私は 28 日、南諏訪 IC 近くで泊った。宿は昔、美濃戸上で「小松山荘」を営業していた、小松武一氏の娘さん（といってもそれなりの年齢）がやっている民宿。その名も「小松山荘」という。

娘さんは、武一氏に目元がよく似ていた。この民宿は先日、北横岳に続き二回目。その時、**「冬はダルマストーブがガンガン燃えていた」**など、昔話をしたら娘さんは**「お父さんを覚えていてくれた」**と喜んだ。壁に写真があり、武一氏は若いころ、八ヶ岳山麓で森林軌道利用の木材搬出をやっていたようだ。

57 年前のこと

・・・初めて八ヶ岳に入ったのは 56 年前、1969 年 4 月 29 日～5 月 5 日。私は 22 歳。沼津北嶺登行会の仲間 8 名と一緒だった。当時、移動は電車。下土狩駅から御殿場線～東海道線～身延線～中央線で茅野に着き、バスで美濃戸に向かった。兎に角大変だった。

美濃戸から小一時間歩けば、前述の「小松山荘」がある。豪気で気の良い小松武一さんが熱いお茶を出し迎えてくれた。その後も行く度に世話になった。後年、武一氏は亡くなり、弟さんが後を継いたが最終的に廃業した。

当時は、山といえばクライミング。小同心・赤岳ショルダー・南峰リッジ・阿弥陀岳北西稜など登攀した・・・(大同心は 70 年 1 月登攀)

北嶺登行会メンバー

前列・大村武彦（当時会長）　中列・左から＝渡邊吉美、芹澤、後藤育三、山本角男
後列・左から＝女子不明・池田・後藤・加藤

民宿にスキーの先客

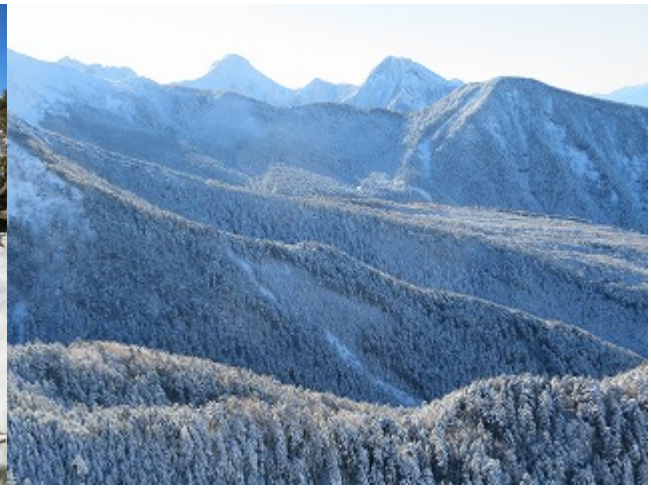
宿に入ったら先客が居た。町田市の 75 歳の方。ゲレンデスキーで 3 ヶ月滞在という。食事は自炊。料金は、1 ヶ月約 7 万円。長期滞在で通常の約半額だった。しかし、それにしても 3 ヶ月、ゲレンデスキーで飽きないですかの質問に**「飽きない」**と断言した。私などゲレンデスキーは、半日で飽きるので信じ難かった。

山は登山者でごった返していた

29 日、5 時前発。フロントガラスは前回同様ガジガジ。唐沢鉱泉まで雪は少なく問題なかった。人は溢れていた。人気の高さが伺えた。M 氏と無事合流。氏は朝食がまだだったので 30 分待った。完璧なトレースなので、アイゼンなしで出発。

峠先でチエーン・アイゼンを履いた。やはり歩き易い。天気は快晴。第一展望台に出

M 氏



赤岳方面

山頂下で俯瞰

ると風が強くなった。脱いだヤッケを着た。

この辺りで私はペースが合わなので、M 氏に先行して貰った。氏は、69 歳になったばかり。来年 2 月で 79 歳の私と 10 歳若く元気は良い。途中で単独の女子に会った。冬の西尾根は 3 回目といった。往復でなく周回。これまた元気が良い。

第一展望台を経て第二展望台から下って最低コル着。チエーン・アイゼンは脱いで 12 本アイゼンを装着した。更に上り易くなった。

巨石帯　　山頂下

　コルから巨石帯を抜けて山頂に向かう。周りには誰も居なかった。程々の雪でトレースもシッカリしているので上り易い。ただ、「ゼーゼー・ハーハー」息が切れる。何故、こんなに息が切れるか不思議だった。
・・・大きな病気がなくても、加齢に伴う筋力の低下は息切れの大きな原因になります。年齢を重ねると、手足だけでなく横隔膜や肋間筋などの呼吸筋も衰え、呼吸が浅く速くなります。そのため、少し動いただけでも息が上がりやすくなるのです・・・ネット（納得）

　巨石帯を抜け山頂下に達した。上から誰か下って来る、M 氏の見覚えのあるヤッケが見えた。しかし、氏は私を確認すると踵を返し、再び山頂に向かった。数分後、氏と山頂で合流。トータルで約 30 分の差だった。朝、朝食時、氏を 30 分待ったが、私が先に行けば、丁度良かったなどと思った。(笑い)
　何処かの方に写真を撮って貰った。山頂は何故か風が殆どなかったので食事を摂った。お汁粉を飲み、ドラ焼きを食べた。たくさん食料を持参したが、消費したのはこれだけ。もう少し食料計画の工夫が必要と思った。氏は、おむすびを食べていた。

西天狗山頂（左 M 氏）　　名古屋の 84 歳の方

下山を開始した

30 分で下山開始。東天狗山頂に多くの方が、**「こぼれそうに」**見えた。西天狗は多くが周回の感じ。私は既にその気概はなかった。巨石帯を慎重に下る。時間が早いので下から沢山上って来る。近くに黒百合ヒュッテがあり、標高差が適当で人気が高いか。

途中で外人 4 組 8 名に会った。中に男女もいた。観光なら分かるが、日本の雪山は外人にも魅力があるのだろうか。

第二展望台付近で会った女子（最後の写真の二人）は、唐沢鉱泉送迎バス利用で来たという。山頂には行かないが、13:30 まで下山して温泉を楽しんで帰るといった。そんな楽しみ方もイイね。

第一展望台で会った名古屋から来た高齢男性は 84 歳だった。毎年、雪の西尾根を専門で上っているそうだ。しっかりピッケルを背負っていた。この方も山頂まで行かないが、その**「パッション（情熱）」**に頭が下がった。

結局、私は写真撮影や登山者交流で時間が掛かった。M 氏に先行して貰ったが、途中で待機してくれていた。

誠に申し訳なく、有難い感謝の気持ちで一杯。氏とは唐沢鉱泉でサヨナラ。長泉着 17:30。明るいうち帰着で安全安心走行だった。

ここまで楽しんだ女子二人（第二展望台付近）

追記・・・雪の西尾根、今回山頂まで時間は約 3 時間半。1 月も約 3 時間半。（結局、今年は年始・年末 2 回上った）2024 年は約 3 時間 10 分。2022 年は巨石帯まで。I 君は単独で約 3 時間半だが, 女子 1 名参加でペースが遅かった。以上、概ね雪の西尾根は 3 時間半程度。今回、特に遅い訳ではないが、前述の通り「苦しさは最上級」だった。